

琉球大学学術リポジトリ

草稿『南洋群島の研究』第七章 第三節 人口衰退の原因

| | |
|-------|---|
| メタデータ | 言語: 出版者: 公開日: 2018-04-16 キーワード (Ja): 矢内原忠雄 キーワード (En): Yanaihara Tadao 作成者: 矢内原, 忠雄 メールアドレス: 所属: |
| URL | http://hdl.handle.net/20.500.12000/37991 |

矢内原忠雄文庫

| | |
|-------|----------------------------|
| 史料名 | 草稿『南洋群島の研究』第七章 第三節 人口衰退の原因 |
| 封筒番号 | 245 |
| 原文所蔵者 | 琉球大学附属図書館 |
| 撮影年月日 | 平成 17 年 11 月 14 日 |
| 撮影者 | 富士写真フイルム 株式会社 |
| 備考 | |

矢内原忠雄文庫

封筒番号：245

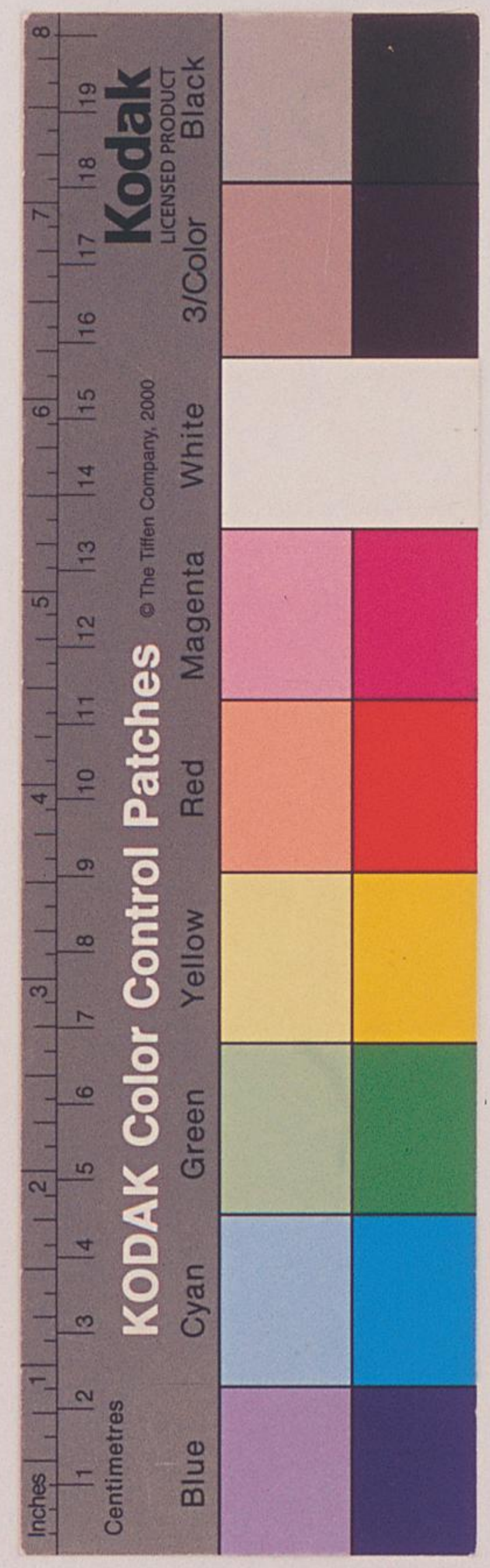
| | |
|---------|---|
| 史料名 | 草稿『南洋群島の研究』第七章 第三節 人口衰退の原因 |
| 資料形態 | B5原稿用紙 |
| 枚数 | 4 |
| 页数 | 4 |
| 縦 (cm) | |
| 横 (cm) | |
| 厚さ (cm) | |
| 書誌的事項 | 南洋 『南洋群島の研究』P449の記述に近い 今泉分類記号：Y |

19
人
田
京
也

高野人正の書一三言也は改名人の控事によつて改書す。尤も此の句は人
田一を改書し其を佐藤の註の註を改書す。其の註を改書す。其の註を改書す。
の書也は改書す。其の書也は改書す。其の書也は改書す。其の書也は改書す。

東京
文房
堂製

10-20



1/12

(2)

一八四二年の頃

もあつた。例) 一八二二より一八八二にまで、^(普魯士軍艦の艦長)

能くし、^(オランダ軍艦の艦長) 北海を渡るブリッジ (Cynthia A. G. Bridge)

は、^(オランダ軍艦の艦長) クリスチヤンの著書に序文に於て「土人人口の減少が一つあつた

とは確當である。併し今日より減少するが速に於けるより一

層大である。同船長である。三つあるのは、^(三つの船) 何と

ない。實際土人は白人が新台に現はれる以前より既に急速に

絶滅の方向に動いてつあつたと推測する。理由は、^(理由)

「一、その故に白人は彼等に對して重大な罪を犯したといふ、

本事件は、^(本事件) 彼等の絶滅に對して責任を負つてゐると思

ふ、^(思ふ) 以て自ら懲むるを得る。」 (Christian. p. 11)

東京文房堂製

Litke

には何等の合理的根拠も存在しない。

右 想像の根拠としてグリフの遺跡等は、ホナ、及びクナクナの巨大な

（考ふる）

（南島列島）

Nammatel

Lete

石造の遺跡跡との建築大なるが、是等は島の歴史は現在

以上の追加多数の人口も有るに違いないといふのである。併して

この島の遺跡を建設したるものが果して欧米島の歴史であるか、或

は別の先住民族であったかは、方眼をなすのみならず、
（考ふる）

在の島の先住民族の歴史に於ては、大なる人口を有するものと

（考ふる）

（考ふる）

（考ふる）

ハレフルンが家柄洞窟の一角を占めてあり、洞窟を築き、その中に

（考ふる）

も、その島の人口が不足して、
（考ふる）

あつたと認められる。而してその洞窟とする所は、

の時、多々人が影を落とす。これより、
（考ふる）

秘史は、あつたといふのである（Sakurai, Kuonin, Vol. I, 533）。併し

